

第 1 回 板橋区自転車活用推進計画策定委員会で 出された意見等とその対応状況

(1) 板橋区自転車活用推進計画の策定について【資料 1 関連】

No.	意見・質疑等	事務局からの回答
1.	<p>「すべての人々が交通ルールやマナーを理解し尊重する社会環境をつくり出すとともに・・・」とあるが、具体的にどのように作り出すのか。交通ルールやマナーについて、一般の人たちに対しどのように伝え、理解してもらうのか。《大島委員》</p>	<p>骨子案においては、親が子どもに自転車の乗り方を教える際のポイントが学べる講座(⑫-2)や、学齢に応じた体験学習(⑫-4)、退職した高齢者等が自転車安全利用の指導者となっていくための講座(⑮-1)等を施策の方向性に掲げるなど、あらゆる階層に安全利用を浸透させていく施策を検討します。</p>
2.	<p>道路には歩行者やバイク、自動車といったそれぞれスピードの違うものが混在している。こうしたスピードの違いをどのように整理し、制御するのか。自転車のみに着目して議論しても解決しない問題がたくさんあると思う。これを認識したうえで計画を策定しないと、20年・30年と経っても、交通環境は良くならないと思う。《大島委員》</p>	<p>本計画では、一般的な自転車に加え、多様な自転車や電動小型モビリティなどを計画の対象とし、これらの総称として「スマートモビリティ(仮)」と定義しています。これらを中速度(6~25km/h程度)の車両として整理し、バイクや自動車といった高速度の車両や、歩行者などとは区別するとともに、それぞれのすみ分けや、共存のあり方について検討していきます。</p>

(2) 自転車を取り巻く現況と課題について【資料3 関連】

No.	意見・質疑等	事務局からの回答
1.	<p>通学・通勤という視点で自転車利用の実態を示していただいているが、世代別での自転車利用特性を調べてみたら、何か特徴的なものが見えてくるかもしれないと感じた。そこから板橋区の特徴がつかめるのではないか。</p> <p>もう一点、区内でも自転車利用が多い地域と、そうではない地域があるのではないか。それによって、自転車のある暮らしも変わってくると思う。区全体という視点だけではなく、地域を少し細分化して、戦略的に施策を検討できないか。《中島委員》</p>	<p>東京都市圏パーソントリップ調査を用い、区内を4つのゾーンに分け、各ゾーン間の自転車利用実態を整理しました（骨子案本編・図1-2-1）。</p>
2.	<p>資料には無いようだが、小学生の通学時間帯に狭い道路を自転車が猛スピードで走行し危険だという学校がどこかにあったと記憶している。こうした学校まわりの危険箇所情報のようなものをまとめていただけると何かの参考になると思う。《別府委員》</p>	<p>通学路に関しては、ハード・ソフトの両側面から早期に効果の発現が期待できる施策を検討いたします。</p>
3.	<p>区施設の来場者数は示していただいたが、区内にはこれ以外の観光資源（歴史的な史跡、寺、神社等）もあり、ここに観光で来られる方も多い。そうした場所の近くに駐輪場があるか無いかというのは自転車活用の観点で大きなポイントになると思う。区内には板橋や中板橋などに観光コースが設定されているが、そういったコース上における駐輪場の有無を調べると良いのではないかと感じた。</p> <p>《別府委員》</p>	<p>観光振興に関しては、観光協会との連携を視野に入れながら、実行可能な施策について検討いたします。</p>
4.	<p>平成12年に「板橋区・豊島区自転車利用環境整備基本計画」を策定したとあるが、これに基づいた実績はどのようになっているのか。ちょうどいま、この計画が策定されてから20年が経っている。これから20年後の計画を作ろうとしているわけなので、参考になる部分があると思ひ伺った。</p> <p>《大島委員》</p>	<p>平成12年の計画で「コリドー路線」として位置づけた約25km（上下線の合計）の計画路線のうち、整備済み路線の延長は約5km程度に留まっています。</p>

(3) 骨子案の作成に向けた整理について【資料5 関連】

No.	意見・質疑等	事務局からの回答
1.	<p>過去に高齢の母が自転車に乗っていて事故に遭ったことがある。高齢者の中には、足腰が弱っていて自転車を乳母車代わりに利用していたり、急にとび出してきた人を避けようと転んでしまったりという人も多い。こういう人たちに対して「自転車を使わないでほしい」というメッセージを盛り込むことも必要ではないかと感じている。</p> <p>《大島委員》</p>	<p>骨子案では、本編第3章の目標7において、身体特性に合った安全な自転車の普及を掲げており、体力などに応じた適切な自転車利用を推奨していきます。</p>
2.	<p>戦略II「健康長寿のまちづくり戦略」が高齢者に対する施策となっているように見えるが、健康というのは若い世代であっても対象になるはずである。特に最近では30代、40代の人も健康意識は強まっている。「板橋区に住めば、自転車を使って休日には荒川河川敷を走ることができ健康的に暮らせる」というようなライフスタイルを提示できると、とても魅力的なものになると思う。施策・取組は目標ごとに分けられるはずなので、目標の段階で“健康＝高齢者”と固めてしまうと、健康に関する施策が高齢者に偏ってしまうことを危惧する。一例として示した。検討をお願いしたい。</p> <p>《中島委員》</p>	<p>骨子案で示した3つの基本方針のうち、健康分野に関する内容は「未来へつなぐ利用環境を育む」とした“基本方針3”に位置づけております。高齢者に特化せず、ライフステージに応じた施策の展開をめざします。</p>